

■ 特別出演

川上侑紀



◇プロフィール

9歳から金管バンドにて打楽器を始め、西宇先生と出会う。
中学校においても、吹奏楽部で打楽器を続ける。

高松第一高等学校音楽科に入学と同時に打楽器を専門的に学び始め、愛知県立芸術大学音楽科打楽器専攻に入学する。在学中は、室内楽や吹奏楽、オーケストラ等の演奏会に出演し、年一回行われる同大学打楽器専攻生による、自主企画自主公演の打楽器アンサンブル「打のとき」にも参加している。

2006年には愛知県文化振興事業団プロデュースの「オペラ ラ・ボエーム」にバンダとして出演する。2006年度に同大学卒業。

これまでに打楽器、マリンバを、何森博子、今村三明、神谷百子の各氏に師事。

第5回 PERCUSSION FESTIVAL 2007 in NAGOYA に新人演奏として出演。高松ウィンドシンフォニー、TWS 打楽器アンサンブル『RIN』、FROGS に所属。香川県にて活動中。現在、牟礼小学校講師。

◇演奏曲目

♪ trommel-suite 「トロンメル組曲」(作曲者 S. フィンク)

この曲は、intrada, toccata, mista, cadenza, marcia の五楽章で構成されています。intrada は、テンポはゆっくりですが、リズムが細かい曲です。toccata はテンポが速く、多くの奏法が使われています。mista は、唯一の変拍子です。

cadenza は、10個のリズムパターンを使って、奏者が強弱やばちなどを自由に変えて演奏する曲です。marcia は、2拍子で軽快な曲になっています。

この曲の特徴は、全ての楽章において、小太鼓の叩く場所を小太鼓の中央、その周り、rim の近く、rim と4カ所指定されているところです。さらに小太鼓の on, off やばちの指定もある為、小太鼓一つでいろいろな音色が聴こえてきます。そして、奏法もたくさん出てくるので、音色だけでなく、視覚的な面でも楽しめる曲です。

本日はこの中から、toccata と marcia を演奏します。

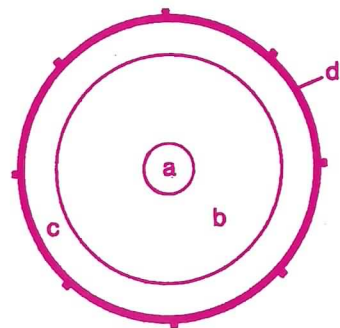
※ toccata (トッカータ)

語源は「(鍵盤に) 触れる」という意味のイタリア語。

即興的で技巧的な鍵盤楽曲に使われたのが元になっている。

marcia (マルチャ)

行進曲・マーチ風に演奏するという意味。



♪ 打楽器の魅力

打楽器は幅広い表現ができます。同じ楽器でも、叩く・擦る・振るなどの鳴らし方で、多種多様に音色が変化します。打楽器は管楽器よりも、旋律を演奏することが少ないですが、打楽器には「リズムを刻む」という重要な役目があります。さらに、打楽器を使うかどうか、またどんな打楽器を選ぶかによって、曲の雰囲気も全く違うものとなります。打楽器奏者にとっては、雰囲気作りも大切な役割のひとつなのです。私が思う打楽器の最大の魅力とは、たった一発の音色で、その場の雰囲気を変えてしまう、いわばスパイスのような役目をもつところです。